

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【太田小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	「自分の考えを、根拠とともに論理的に表現する力」の育成 また、それらの土台となる「基礎的・基本的な知識・技能」の育成
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	「学び方を学ぶための時間」「自分の学びをデザインする力を育てる時間」としての朝の学力向上タイム、習熟の時間の活用。【通年・毎週】 教職員研修内での、習熟の時間のPDCAサイクルの確立。【通年・毎週】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
		④結果提供(2月)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	「思考・判断・表現」に関する記述式の問題においての誤答が目立つ。考えの説明をする問いに対して誤答が目立つ。 「知識・技能」に関する問題については、「思考・判断・表現」よりも正答率が高い。また、最後の問題になると無解答率が目立つ。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	書くことに抵抗感があり、思考を止めてしまっている場合もあるのではない か。振り返りなどの書く活動を繰り返すことでその抵抗感を払拭できれば、結 果にも変容が見られるのではないか。 最後の問題まで解く時間配分に課題があるのではないか。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※) B 学校課題研修を中心とした習熟の時間の活用、学年内での計画的な学力向上タイムを推し進められている。
↓	
学力向上策の 見直し	今後は、学力調査の結果から習熟の時間、学力向上タイムの内容を精査していく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所